

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	大阪大谷大学
設置者名	学校法人大谷学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
文学部	日本語日本文学科	夜・通信		69	30	99	13	
	歴史文化学科	夜・通信			24	93	13	
教育学部	教育学科	夜・通信			208	208	13	
人間社会学部	人間社会学科	夜・通信		78	196	274	13	
	スポーツ健康学科	夜・通信				80	158	13
薬学部	薬学科	夜・通信			91	91	19	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://portal.osaka-ohtani.ac.jp/wp/syllabus/se0010.aspx?me=EU&opi=mt0010 (「実務経験」で検索可能 一覧表はホームページ内ポータルに掲載)

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名 該当なし
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	大阪大谷大学
設置者名	学校法人大谷学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

http://www.ohtanigakuen.jp/pdf/yakuin20200701.pdf

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	学校法人名誉理事長・学園長	2016.12.14 ～ 2020.12.13	高等教育における意見を学園運営に反映する
非常勤	株式会社役員	2020. 7. 1 ～ 2020.12.13	産業界の意見を学園運営に反映する
非常勤	国立大学法人名誉教授 (他法人)	2018. 9.25 ～ 2022. 9.24	高等教育における意見を学園運営に反映する
非常勤	国立大学法人名誉教授 (他法人)	2020. 4. 1 ～ 2024. 3.31	高等教育における意見を学園運営に反映する
非常勤	株式会社顧問	2018. 9.25 ～ 2022. 9.24	産業界の意見を学園運営に反映する
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	大阪大谷大学
設置者名	学校法人大谷学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>授業計画(シラバス)の項目として、到達目標、成績評価の方法、評価基準や授業の方法及び内容を必ず記載することになっている。</p> <p>毎年、12月までに専任教員と非常勤講師それぞれに、授業計画(シラバス)作成に向けてのFD研修会を開催し、1月中に授業計画(シラバス)シラバスの作成を依頼している。2月以降には、全学の教務委員が、授業計画(シラバス)作成のFD研修会で依頼した事項が反映されているか確認作業を行い、誤りや不適切な表現があるものについては修正を依頼し、3月末の学生への公表を目指して作業を進める。</p>	
授業計画書の公表方法	https://www.osaka-ohtani.ac.jp/student/classwork/register.html#shirabasu
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>大阪大谷大学成績評価ガイドラインに基づき、授業科目ごとに関連付けられたディプロマ・ポリシーの各項目に準拠して定められた学習到達目標が、どの程度達成されたかを観察および検証が可能なように成績評価基準を定めることとしている。また、成績評価は、筆記試験や口述試験、小論文のほか、準備学習の成果、発表や討論など日常的な学習活動状況などのなかから、授業科目の授業形態や授業内容に適するように複数の方法を組み合わせて行うこととしている。</p> <p>各授業科目の成績評価の基準およびその方法は、学習到達目標との関係に留意しながらシラバスに明記し、必要に応じて授業内においても受講生に周知している。</p> <p>各授業科目の成績評価結果に対して、学長および学部長は、それぞれの科目の内容や特性を勘案して、必要に応じて担当教員に説明を求めることとしており、成績評価の第三者による検証を実施する。一方、受講生よる成績の疑義の申し出や成績の根拠に関する説明の求めがあれば、担当教員は適切に成績評価の対象となる成果物を示し、評価結果について可能な限りフィードバックし、その説明責任を果たすものとしている。</p>	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

各授業科目の成績分布および授業科目内におけるGPの統計値をWebにより公表する。なお、GPAの指標や算出方法は学生便覧に掲載しており、その内容は、以下の通りである。

成績評価とGP

各科目の成績評価および評価を数値化したGP(Grade Point)を以下の表のように定めている。

評価	評価基準	GP
秀(100~90)	学習到達目標を十分に達成しきわめて優秀な成果をあげている	4
優(89~80)	学習到達目標を十分に達成している	3
良(79~70)	学習到達目標を概ね達成している	2
可(69~60)	学習到達目標を最低限達成している	1
不可(59~0)	学習到達目標を達成していない	0
認定	学習到達目標を達成している	-

GPAの算出方法

履修科目の成績評価をGPに置き換えて、以下の式のように算出する。

$GPA = (\text{履修登録科目の単位数} \times \text{履修登録科目で得たGP}) \text{の合計数} \div \text{履修登録科目の総単位数}$

GPAの種類

各学期で履修した科目について算出したGPAを学期GPA、1年次から当該期までのすべての履修科目について算出したGPAを累積GPAと呼ぶ。学期GPAは短期的な学修成果を、累積GPAは入学してから現在までの学修成果の積み重ねを表す指標になる。

GPA算出の対象科目

原則として履修科目すべてをGPAの計算対象とする。

ただし、成績評価が「認定」か「不可」のみで行われる認定科目、履修科目取消制度により取り消された科目については除外される。

履修登録科目の取消

事情により履修を取りやめたい科目があるとき、登録を取り消すことができ、GPAの計算からも除外される。全科目対象としているが、必修科目・抽選科目・実験実習費徴収科目は除く。取消の期間は、3回目の授業終了後に設定している。

客観的な指標の算出方法の公表方法

修学の支援に関する法律に基づく減免者の成績については、年度末の累積GPAの成績分布により全体の1/4以上の成績を満たしているか確認できるよう情報をWEBに掲載する予定である。

<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>本学では建学の精神と教育理念に基づき、学生がどのような力を身につけて卒業できるのかというディプロマ・ポリシーを学科ごとに定めている。ディプロマ・ポリシーは、ホームページや学生便覧に掲載し、学生や広く一般に提示している。ディプロマ・ポリシーは以下の通りである。</p> <p>ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)</p> <p>全学科とも、ディプロマ・ポリシーは以下の5つの項目から構成されており、この項目を柱に各学科のディプロマ・ポリシーが策定されている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 報恩感謝の心と幅広い教養 2. 専門的な知識・技能 3. 問題解決能力 4. 自律的・主体的・共感的態度 5. 実践力 <p>また、各科目におけるディプロマ・ポリシーのとの関連性をカリキュラムマップやシラバスに掲載しており、シラバスの到達目標とも合わせ、各授業科目の履修によって獲得できる能力や態度を確認することができる。さらに、入学時と3回生におけるアセスメントテストにより汎用的技能（リテラシー・コンピテンシー）に関わる能力についても客観的に評価する。</p> <p>さらに卒業に向けての取り組みとして、学期内のGPAが二期連続して0.67を下回った場合は学部による退学勧告が行われるほか、学期GPAが1.5を下回った場合も、アドバイザー教員等との個人面談・学修指導が行われ、修学意欲の向上に努めている。全学部とも、各学科のディプロマ・ポリシーで定めているすべての能力・資質が問われる「卒業研究」(または「卒業論文」)を、最終学年次の必修科目として課している。卒業直前に提出された卒業論文の審査・評価も含め、すべての学業成績をもとに教授会により卒業判定の審議がなされる。</p>	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	https://www.osaka-ohtani.ac.jp/about/diploma_policy.html

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	大阪大谷大学
設置者名	学校法人大谷学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	http://www.ohtanigakuen.jp/pdf/taishakutaishouhyou_h30.pdf
収支計算書 又は損益計 算書	http://www.ohtanigakuen.jp/pdf/jigyokatudousyuusikeisansyo_h30.pdf
財産目録	http://www.ohtanigakuen.jp/pdf/zaisanmokuroku_h30.pdf
事業報告書	http://www.ohtanigakuen.jp/pdf/jigyohoukokusho_h30.pdf
監事による 監査報告 (書)	http://www.ohtanigakuen.jp/pdf/kanjikansahoukokusho_h30.pdf

2. 事業計画 (任意記載事項)

単年度計画 (名称 : _____ 対象年度 : _____)
公表方法 :
中長期計画 (名称 : _____ 対象年度 : _____)
公表方法 :

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法 : https://www.osaka-ohtani.ac.jp/about/jihee.html
--

(2) 認証評価の結果 (任意記載事項)

公表方法 : https://www.osaka-ohtani.ac.jp/about/jihee.html
--

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 文学部
教育研究上の目的 (公表方法： https://www.osaka-ohtani.ac.jp/files/about/rules_doc_2019_01.pdf) (概要) 文学・言語・歴史など多様な人間文化に関する基礎的知識を習得し、専門分野を探究することによって普遍的かつ創造的な思考力と表現力を身につけ、人間と社会に対する洞察力を備えた人材を育成する。 日本語日文学科は、幅広い教養と正確な情報分析に基づく考察力や判断力、そして豊かな表現力を習得させる。 歴史文化学科は、過去の人間の歴史や文化についての理解を深め、歴史的な視点から現在および未来における人間・社会について洞察できる人材を育成する。
卒業の認定に関する方針 (公表方法： https://www.osaka-ohtani.ac.jp/department/literature/) (概要) 1. 文化や自然に関する幅広い教養と豊かな人間性を身につけている。 2. 文学・言語・歴史など多様な人間文化に関する基礎的・専門的知識を修得し、課題を理解し、説明することができる。 3. 文字言語と音声言語によるコミュニケーション能力を備え、人間文化に関する学問的な課題について、体系的・客観的な情報分析に基づいて考察し、判断する能力を身につけている。 4. 在学中に修得した知識を活かし、卒業後も自立的に学習を継続する姿勢を身につけている。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法： https://www.osaka-ohtani.ac.jp/department/literature/) (概要) 各学科の設定する教育目的を実現するために、8 つないし 9 つの原則を学科毎に設け、それぞれの教育課程を編成する。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法： https://www.osaka-ohtani.ac.jp/department/literature/) (概要) 日本における言語文化、もしくは日本および諸外国における歴史文化を興味・関心のありかとし、それらを深く学びたいと思うとともに、過去の人間の営みを探究することを通して、普遍的かつ創造的な思考力と表現力を身につけたいという強い意欲をもつ学生を求めます。

学部等名 教育学部
教育研究上の目的 (公表方法： https://www.osaka-ohtani.ac.jp/files/about/rules_doc_2019_01.pdf) (概要) 人間の成長に対する深い洞察力と他者への共感的態度を基盤に持つ豊かな人間性を養い、変化していく社会の新たなニーズに応える高い専門性と優れた実践力を備えた人材を育成する。

<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.osaka-ohtani.ac.jp/department/education/)</p> <p>(概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 報恩感謝の心と幅広い教養 <ol style="list-style-type: none"> 1) 互いの「いのち」を尊び、感謝の心で接し合うことができる。 2) 文化や社会、自然に関する幅広い教養を身につけ、自己の存在と関連づけて理解できる。 2. 専門的な知識・技能 <ol style="list-style-type: none"> 1) 乳幼児、児童、生徒の成長・発達のみちすじを理解することができる。 2) 各専攻の目指す職業人として必要な専門的な知識・技能を修得している。 3. 問題解決能力 <ol style="list-style-type: none"> 1) 社会の変化・高度化に伴う課題を発見し、必要な情報を収集して分析・判断し、対応することができる。 2) 専門的な知識・技能に基づいて、知見や提案を他者に分かりやすく説明し、協働して問題解決を図ることができる。 4. 自律的・主体的・共感的態度 <ol style="list-style-type: none"> 1) 教育・保育活動に対して深い関心と高い熱意を示し、自律的・主体的・継続的に自己研鑽を積むことができる。 2) 人間に対する洞察力と客観的な視座を保持しながら、多様な人々に共感的態度で接することができる。 5. 実践力 <ol style="list-style-type: none"> 1) 発達に応じた保育・授業の構成や教材・教具の工夫ができる。 2) 個に対応した指導や支援ができる。 3) 大学での学びをもとに、他者のために行動する力を身につけている。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.osaka-ohtani.ac.jp/department/education/)</p> <p>(概要)</p> <p>「教員養成を主たる目的とする」学部・学科として、教員としての豊かな人間性と高い実践力を養成することを目的としてカリキュラムを編成している。その際、「幼児教育専攻」「学校教育専攻」「特別支援教育専攻」それぞれの独自性を大切にするとともに、教育、学校、乳幼児・児童・生徒、家庭や社会に関する基礎的・基本的な知識・技能、考え方については、教育学部の学生全員が共通して履修できるように編成している。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.osaka-ohtani.ac.jp/department/education/)</p> <p>(概要)</p> <p>幼児教育専攻 幼児教育をめぐる課題を発見し、幅広い教養と専門的な知識・技術によって問題解決を図る能力を身につけ、他者に共感し、他者と協働して個に応じた適切な指導や支援ができる実践力を備えた人材の育成を目指しています。</p> <p>学校教育専攻 教育に対して深い関心と高い熱意を示し、幅広い教養と専門的な知識・技術によって問題解決を図る能力を身につけ、自律的・主体的・共感的態度を持ち、発達に応じつつ個に対応した指導ができる実践力を備えた人材の育成を目指しています。</p> <p>特別支援教育専攻 幅広い教養と支援教育に必要な専門的な知識・技能に裏づけられた問題解決能力を身につけ、他者と協力しながら特別支援教育を推進し続ける実践力を有する人材の育成を目指しています。</p>

学部等名 人間社会学部
<p>教育研究上の目的 (公表方法：https://www.osaka-ohtani.ac.jp/files/about/rules_doc_2019_01.pdf)</p>
<p>(概要) 「人と社会」の関係について科学的視点をもって探求し、人及び社会の課題に対して解決策を企画・実践する能力を身につけた、社会の発展に有為な人材を輩出する。 各学科の教育目的は次のとおりとする。 人間社会学部は、心理学・経営情報学・社会福祉学・現代社会学の一つを軸にしつつ関連する学問領域の基礎知識を学際的に身につけ、国際的かつ地域的な視点を備えた人材を養成する。 スポーツ健康学科は、スポーツを通して、人が生涯にわたり健康で豊かな生活を送るための支援に必要な知識及び技能を修得し、加えて「人と社会」の関係を科学の視点から探究することにより多角的にスポーツにかかわる人材を育成する。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.osaka-ohtani.ac.jp/department/human_societies/)</p>
<p>(概要) 所定の期間在学し、学部の教育目的に沿って設定された授業科目を履修して基準となる単位数を修得し、かつ卒業論文を作成して審査に合格することが学位授与の要件である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 文化や自然に関する幅広い教養と豊かな人間性を身に付けている。 2. 生涯にわたって学び続けたいという意欲とそのための知識・技能を持っている。 3. 本学部の学問領域に関する基礎知識を習得している。 4. 本学部の学問領域における諸課題を科学的に分析し、解決策を企画することができる。 5. 本学部の学問領域における諸課題に積極的に関与する態度をもつことができる。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.osaka-ohtani.ac.jp/department/human_societies/)</p>
<p>(概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 建学の精神に基づく人格教育 互いの「いのち」を尊び、感謝の心で接し合う社会の創造に資する学生の人格形成を支援するために、「宗教学」を初年次の必修とし、入学直後から建学の精神について学ぶ。 2. 多角的な視点を身につける教養教育 幅広い学びを保障し、多角的な視点を身につけられる教養教育を実践するため、語学を必修として設定し、「人文科学」「社会科学」「自然科学」の3領域から履修科目を選択する。 3. 自己実現を支援するキャリア教育 大学での学び方や自己の特性を知り、社会人に必要な知識やスキルを身につけるために、自身にあった職業選択につながるキャリア教育を実施する。 4. 学生のニーズに即応する少人数指導 少人数編成科目を初年次から最終学年まで縦断的に設置する。 5. 学ぶための基盤を確実にする初年次教育 大学での学習に必要なスキルと態度を身につける。 6. 専門領域を横断する学際的教育 異なる学問領域間の連携を推進し、学際的な学びを実現する。 7. 基礎から発展までの体系的カリキュラム 基本知識と技能の習得から始め、学年進行にあわせ科目を配置する。
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.osaka-ohtani.ac.jp/department/human_societies/)</p>
<p>(概要) 大学レベルの教育に必要な基礎学力を備えるとともに、本学部の学問領域に関心を持ち、大学における学びへの努力をいとわない人物を求めます。</p>

学部等名 薬学部
<p>教育研究上の目的 (公表方法：https://www.osaka-ohtani.ac.jp/files/about/rules_doc_2019_01.pdf)</p> <p>(概要) 生命科学・医療科学的専門知識と技能および実践力を備え、高い倫理観を有する人間性豊かな薬剤師を養成し、国民の健康・福祉の向上に寄与する。 人間性豊かな薬剤師を養成し、国民の健康・福祉の向上に寄与する。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.osaka-ohtani.ac.jp/department/pharmacy/)</p> <p>(概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> 報恩感謝の心と幅広い教養 <ol style="list-style-type: none"> 互いの「いのち」を尊び、感謝の心で接し合うことができる。 生命の尊厳について深い認識をもち、幅広い教養を基に豊かな人間性を身に付け、人々の健康な生活に貢献する使命感と高い倫理感を有する。 専門的な知識・技能 医療及び公衆衛生の向上に貢献できるよう、薬学領域における専門的な知識・技能を修得している。 問題解決能力 医療現場における課題を見出し、問題解決に向けて、修得した知識・技能を基に判断し、他者と協働して創造的にアプローチすることができる。 自律的・主体的・共感的態度 <ol style="list-style-type: none"> 医療や科学の変化や高度化に対応して高い知識と技能を修得するよう、継続して自己の専門性を高め、後進を指導・育成する意欲と態度を身につけている。 他職種の人々と主体的に連携するコミュニケーション能力を有し、患者や生活者の立場に立って行動できる態度を身につけている。 実践力 薬物療法や薬学的管理に関する知識・技能を活用し、他者のために行動する力を身につけている。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.osaka-ohtani.ac.jp/department/pharmacy/)</p> <p>(概要) 「科学的な専門知識と技能および実践力、高い倫理性と豊かな人間性を併せ持つ薬剤師の養成」を教育目標に定めている。このため、薬学部のカリキュラムは、薬学教育モデル・コアカリキュラムに準拠しつつ、かつ、ディプロマ・ポリシーに掲げた知識・技能・態度が卒業時までには修得できるよう、1年次から順次性のある学習成果基盤型のカリキュラム編成とする。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.osaka-ohtani.ac.jp/department/pharmacy/)</p> <p>(概要) 幅広い教養と医療に関する専門的な知識や技能、態度を身に付けることで、科学者の素養を持った、人間性が豊かで、患者中心の医療に貢献できる薬剤師の育成を目指しています。</p>

学部等名 大学院 文学研究科
<p>教育研究上の目的 (公表方法：https://www.osaka-ohtani.ac.jp/files/about/rules_doc_2019_02.pdf)</p>
<p>(概要) 学問の真理と大乘仏教の精神を尊重し、学術の理論および応用を教授研究し、社会の発展と文化の向上に寄与することを目的とする。</p> <p>国語学国文学専攻 上代から現代に至る日本語と日本文学の諸相、ひいては日本文化についての豊かな学識を備え、高い研究能力と後進を指導する力を併せ持った人材を育成する。</p> <p>歴史文化学専攻 人類が過去に培い、育んできた歴史文化の諸事象を、歴史学・美術史学・考古学の領域から研究し、専門的研究者としての人材を育成する。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.osaka-ohtani.ac.jp/department/graduate/)</p>
<p>(概要)</p> <p>国語学国文学専攻博士課程（前期）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 報恩感謝の心と幅広い教養 互いの「いのち」を尊び、感謝の心で接し合うことができる。上代から現代に至る日本語と日本文学の諸相、および日本文化の領域について、幅広い教養を身につけている。 2. 専門的な知識・技能 国語学国文学に関する高度な専門知識と、関連資料を適切に扱う技能を身につけている。 3. 問題解決能力 国語学国文学に関する研究課題を自ら見出し、体系的・客観的な分析を通じて問題解決をはかることができる。新しい知見を創造し表現することができる。 4. 自律的・主体的・共感的態度 自律的・主体的に研究を継続するとともに、客観的な視座を保持し、多様な人々に共感的態度で接することができる。 5. 実践力 修士論文において、資料を的確に理解して先行研究を整理・分析し、研究対象の問題点を正しく把握し、独自の見解を明確な論理によって提示するとともに、社会的に利用価値のある研究が展開されている。 <p>国語学国文学専攻博士課程（後期）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 報恩感謝の心と幅広い教養 互いの「いのち」を尊び、感謝の心で接し合うことができる。上代から現代に至る日本語と日本文学、および日本文化の研究者として、自立して研究活動を行うに必要な、幅広い教養を身につけている。 2. 専門的な知識・技能 国語学国文学の研究者として、自立して研究活動を行うに必要な高度な専門知識と、関連資料を扱う専門的技能を身につけている。 3. 問題解決能力 国語学国文学に関する重要かつ斬新な研究課題を自ら見出し、その解決に必要な独創的な研究方法を開発することができる。 4. 自律的・主体的・共感的態度 研究者として自律的・主体的に研究を継続するとともに、客観的な視座を保持し、多様な人々への共感的態度を備えて教育・指導に当たることができる。 5. 実践力 博士論文において、研究領域に関する広範かつ深淵な知識と、独創的研究方法による明晰な分析と論理が提示され、社会的に広く利用価値のある研究が展開されている。 <p>歴史文化学専攻博士課程（前期）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 報恩感謝の心と幅広い教養 互いの「いのち」を尊び、感謝の心で接し合うことができる。歴史文化学に関する幅広い教養を身につけている。 2. 専門的な知識・技能 歴史文化学に関する高度な専門知識と、関連資料を適切に扱う技能を身につけている。

3. 問題解決能力 研究課題を自ら見出し、体系的・客観的な分析を通じて問題解決をはかることができる。新しい知見を創造し表現することができる。
4. 自律的・主体的・共感的態度 自律的・主体的に研究を継続するとともに、他者との共存をはかる共感的態度を身につけている。
5. 実践力 修士論文において、資料を適切に分析し、先行研究を的確に整理し、研究対象の問題点を正しく把握し、独自の見解を明確な論理によって提示するとともに、社会的に利用価値のある研究が展開されている。

歴史文化学専攻博士課程（後期）

1. 報恩感謝の心と幅広い教養 互いの「いのち」を尊び、感謝の心で接し合うことができる。歴史文化学の研究者として必要な幅広い教養および関連分野に関する基礎知識を身につけている。
2. 専門的な知識・技能 歴史文化学の研究者として必要な高度な専門知識と、関連資料を扱う専門的スキルを身につけている。
3. 問題解決能力 重要かつ斬新な研究課題を自ら見出し、その解決に必要な独創的研究方法を開発することができる。
4. 自律的・主体的・共感的態度 研究の深化・高度化に対応し、自律的・主体的に自己研鑽を積むとともに、共感的態度を備えて教育・指導に当たることができる。
5. 実践力 博士論文において、当該研究対象に関する広範かつ深淵な分析および、独創的な研究方法による明晰な論理を提示するとともに、社会的に広く利用価値のある研究が展開されている。

教育課程の編成及び実施に関する方針

（公表方法：<https://www.osaka-ohtani.ac.jp/department/graduate/>）

（概要）

国語学国文学専攻

国語学およびその隣接領域である日本語教育学、国文学およびその隣接領域である漢文学に関する科目を幅広く履修することによって、上代から現代に至る日本語と日本文学の諸相を理解し、国語学、国文学および漢文学、日本語教育学の領域について、博士後期課程では、研究者として自立して研究活動を行うに必要な能力を体系的に習得、博士前期課程では、研究者に必要な能力を体系的に修得できるようにする。

歴史文化学専攻

歴史文化学に関わる様々な科目を幅広く履修することによって、博士後期課程では歴史学・美術史学・考古学の各領域において、自立的に研究を遂行するために必要な、幅広い教養と高度な専門知識および関連資料を適切に扱うスキルを体系的に修得、博士前期課程では歴史学・美術史学・考古学の各領域における専門的研究を遂行する上で必要な能力を体系的に修得できるようにする。

入学者の受入れに関する方針

（公表方法：<https://www.osaka-ohtani.ac.jp/department/graduate/>）

（概要）

「学問の真理と大乘仏教の精神を尊重し、学術の理論および応用を教授研究し、社会の発展と文化の向上に寄与すること」を目的としています。

学部等名 大学院 薬学研究科
教育研究上の目的 (公表方法： https://www.osaka-ohtani.ac.jp/files/about/rules_doc_2019_02.pdf)
(概要) 学問の真理と大乘仏教の精神を尊重し、学術の理論および応用を教授研究し、社会の発展と文化の向上に寄与することを目的とする。 薬学専攻 近年の生命科学、化学、情報学、医療等の急速な進歩を踏まえて、多様な課題に高度かつ先進的な専門知識及び思考力をもって取り組むとともに、新たな道を切り拓く先導的な人材を育成する。
卒業の認定に関する方針 (公表方法： https://www.osaka-ohtani.ac.jp/department/graduate_pharmacy/)
(概要) 1. 報恩感謝の心と幅広い教養 1) 互いの「いのち」を尊び、感謝の心で接し合うことができる。 2) 生命の尊厳について深い認識をもち、幅広い教養を基に豊かな人間性を身につけ、広く社会に貢献する使命感と高い倫理感をもつ。 2. 専門的な知識・技能 社会の発展と文化の向上に貢献できるよう、薬学領域における専門的な知識・技能を修得している。 3. 問題解決能力 自ら課題を見出し、問題解決に向けて、修得した知識・技能を基に得た自らの成果を考察し、他者と協働して創造的にアプローチすることができる。 4. 自律的・主体的・共感的態度 1) 科学や医療、そして社会の変化や高度化に対応して継続して自己の教養と専門性を高め、後進を指導・育成する意欲と態度を身につけている。 2) 広く社会と連携するためのコミュニケーション能力を有し、他者の立場に立って行動できる態度を身につけている。 5. 実践力 情報分野、また国際社会に深い理解をもち、専攻分野における高度な専門的知識・技能を活用し、広く社会のために行動する力を身につけている。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法： https://www.osaka-ohtani.ac.jp/department/graduate_pharmacy/)
(概要) 薬学に関わる科目を幅広く履修することによって、自立的に研究を遂行するために必要な能力を体系的に修得できるようにする。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法： https://www.osaka-ohtani.ac.jp/department/graduate_pharmacy/)
(概要) 「学問の真理と大乘仏教の精神を尊重し、学術の理論および応用を教授研究し、社会の発展と文化の向上に寄与すること」を目的としています。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法： https://www.osaka-ohtani.ac.jp/about/disclosure/2020daigakukyogakusoshiki.pdf https://www.osaka-ohtani.ac.jp/about/disclosure/2020hojinjimushiki.pdf

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	3人	—					3人
文学部	—	12人	5人	2人	0人	0人	19人
教育学部	—	19人	11人	4人	1人	0人	35人
人間社会学部	—	17人	7人	4人	0人	0人	28人
薬学部	—	16人	11人	8人	13人	0人	48人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員				計	
0人		182人				182人	
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法： https://www.osaka-ohtani.ac.jp/department/teacher/					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生による授業評価と教員による授業評価 ・ 成績評価ガイドラインに基づく成績評価の検証 ・ FD講演会の開催 ・ 学生教育改善会議（学生によるFD活動の評価と意見交換）の開催 ・ 学長表彰 							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
文学部	100人	114人	114%	400人	445人	111%	若干名	0人
教育学部	230人	236人	103%	920人	954人	104%	若干名	2人
人間社会学部	180人	199人	111%	720人	781人	108%	若干名	6人
薬学部	140人	141人	101%	840人	841人	100%	0人	0人
合計	650人	682人	106%	2,880人	3,021人	105%	若干名	8人
(備考)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
文学部	100人 (100%)	1人 (1.0%)	80人 (80.0%)	19人 (19.0%)
教育学部	245人 (100%)	2人 (0.8%)	222人 (90.6%)	21人 (8.6%)
人間社会学部	189人 (100%)	3人 (1.6%)	165人 (87.3%)	21人 (11.1%)
薬学部	145人 (100%)	0人 (0.0%)	97人 (66.9%)	48人 (33.1%)
合計	679人 (100%)	6人 (0.9%)	564人 (83.0%)	109人 (16.1%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) 授業計画(シラバス)の項目として、到達目標、成績評価の方法、評価基準や授業の方法及び内容・授業計画を必ず記載することになっている。 授業計画(シラバス)は、3月末に学生へ公表している。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) 各科目におけるディプロマ・ポリシーのとの関連性をカリキュラムマップやシラバスに掲載しており、シラバスの到達目標とも合わせ、各授業科目の履修によって獲得できる能力や態度を確認することができる。さらに、入学時と3回生におけるアセスメントテストにより汎用的技能(リテラシー・コンピテンシー)に関わる能力についても客観的に評価している。 さらに卒業に向けての取り組みとして、学期内のGPAが二期連続して0.67を下回った場合は学部による退学勧告が行われるほか、学期GPAが1.5を下回った場合も、アドバイザー教員等との個人面談・学修指導が行われ、修学意欲の向上に努めている。 全学部とも、各学科のディプロマ・ポリシーで定めているすべての能力・資質が問われる「卒業研究」(または「卒業論文」)を、最終学年次の必修科目として課している。卒業直前に提出された卒業論文の審査・評価も含め、すべての学業成績をもとに教授会により卒業判定の審議がなされる。				
学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
文学部	日本語日本文学科	128 単位	(有) 無	48 単位
	歴史文化学科	128 単位	(有) 無	48 単位
教育学部	教育学科	128 単位	(有) 無	48 単位
人間社会学部	人間社会学科	128 単位	(有) 無	48 単位
	スポーツ健康学科	128 単位	(有) 無	48 単位
薬学部	薬学科	192 単位	(有) 無	48 単位
GPAの活用状況 (任意記載事項)		公表方法： http://www.osaka-ohtani.ac.jp/student/classwork/result.html		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法： https://www.osaka-ohtani.ac.jp/about/disclosure/

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
文学部	日本語 日本文 学科	1年次 910,000円 2~4年次 880,000円	320,000円	1年次 200,000円 2年次 208,000円 3年次 220,000円 4年次 229,000円	施設費 200,000円 実験実習費最高徴収額(令和元年度実績) 2年次 8,000円 3年次 20,000円 4年次 29,000円 ※令和2年度から授業料を学年進行で 30,000円値上
	歴史文化 学科	1年次 910,000円 2~4年次 880,000円		1年次 214,000円 2年次 220,000円 3年次 224,000円 4年次 240,000円	施設費 200,000円 実験実習費最高徴収額(令和元年度実績) 1年次 14,000円 2年次 20,000円 3年次 24,000円 4年次 40,000円 ※令和2年度から授業料を学年進行で 30,000円値上
教育学部	教育学科	1年次 910,000円 2~4年次 880,000円	320,000円	1年次 210,000円 2年次 222,000円 3年次 305,000円 4年次 238,000円	施設費 210,000円 実験実習費最高徴収額(令和元年度実績) 2年次 12,000円 3年次 95,000円 4年次 28,000円 ※令和2年度から授業料を学年進行で 30,000円値上
人間社会 学部	人間社会 学科	1年次 910,000円 2~4年次 880,000円	320,000円	1年次 200,000円 2年次 212,000円 3年次 250,000円 4年次 250,000円	施設費 200,000円 実験実習費最高徴収額(令和元年度実績) 2年次 12,000円 3年次 50,000円 4年次 50,000円 ※令和2年度から授業料を学年進行で 30,000円値上
	スポーツ 健康学科	1年次 910,000円 2~4年次 880,000円		1年次 200,000円 2年次 216,000円 3年次 219,000円 4年次 228,000円	施設費 200,000円 実験実習費最高徴収額(令和元年度実績) 2年次 16,000円 3年次 19,000円 4年次 28,000円 ※令和2年度から授業料を学年進行で 30,000円値上
薬学部	薬学科	1年次 1,410,000円 2~6年次 1,380,000円	400,000円	1年次 400,000円 2年次 400,000円 3年次 580,000円 4年次 580,000円 5年次 580,000円 6年次 400,000円	施設費 400,000円 実務実習費 540,000円 (3~5年次の3ヶ年で90,000円を計6 回分割徴収) ※令和2年度から授業料を学年進行で 30,000円値上げ

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 修学支援給付・貸与奨学金制度・入学試験成績優秀特別奨学金制度・薬学部特待生制度など大学独自の奨学金制度を整え、成績優秀者や経済的困窮する学生を支援している。本学ではアドバイザー制度を実施している。充実した大学生活を過ごし卒業できるよう、また、親身になって効果的な学習支援が行えるよう、学生一人ひとりを対象に、専任教員1名が担当アドバイザーとなり、きめ細かく個人指導に取り組んでいる。

b. 進路選択に係る支援に関する取組

(概要)

就職支援は、1年次から学年に応じて実施しています。企業、公務員、福祉、保育士等を希望する学生には、「将来設計」「進路を明確にする」「就職活動」と各段階に応じてサポートメニューを用意し、教職志望の学生には「教職教育センター」において、教員免許状取得から教職に就くまでを一元化し、学生一人ひとりのニーズに応じた支援を行っています。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要) 学生相談室・障がい学生支援室を設置している。学生相談室では、学生が抱えている悩みや問題について、ともに考え話し合い、学生がより豊かな学生生活をおくることができるよう支援している。また、障がい学生支援室では、すべての学生が平等に教育・研究に参加・活動できるよう、機会の確保に努めている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：